京城新報

●新聞料 ▲一ヶ月前金二拾錢 一ヶ月金廿五錢 ●三ヶ月前金[illegible] ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦 五月十六日
發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
京城西署西小門通 發行所 京城新報社 電話六百六十三番

故李容翊(三)

翠山生

▲彼れは非常に理財の才に長けて居る、頭腦明晰、計劃綿密、能く秩序を整へ順序を追ふ事務の處理に至つては恐らく彼の計算に鈍く推理に疎い朝鮮人としては殆んど珍らしい程である、皇帝が彼れを有數の逸物として御信任になつたも強ち無理はない、

▲のみならず彼れは人蔘で儲けた少なからぬ金をば些の惜氣もなく皇室に融通し一意内帑の整理及び豐富を計りし故皇帝の御覺えは彌が上にも目出度終には彼れを蔘政監督に任じた、此の蔘政監理といふは讀んで字の如く人蔘を監督する役目で却々容易なものには許されない大役なのであるサテ此の大役を拜受した彼れの喜びは殆んど譬ふるに物がない、金が物言ふ世の中とはいへ、めし斯くも萬事の計劃が最初の寸法通り本調子にグッツカッて來るとは豈夫思ひ設けなかつたものを……マヅ此の工合ならば後は此方のものと只管之が目録見の着々と成就し來りしに一先意を安んじたが頓て又つらく考へて見ると自分が將來宿年の希望を遂行する上に於て唯單に一個の人蔘監督の親方では他日政界に立つて目醒ましき勢威を張り名望を負ふことの到底不可能であることの故何んとか今少しく毛色の變つた所謂捨寶取名的の方法はあるまいものかと千思萬考したが何にさま畏くも皇帝の御信任を得て居ることであるから之が志望は容易く叶ひられ今度は一轉して内藏院卿といふ名譽ある地位に任ぜられ公然宮中に於ける財政の大權を掌握することゝなつた

▲而り彼れが志望は着々として果たせられて行くのみである、宛から用々たる大道に輕車を驅つて疾走するが如く又順風に帆を揭げて急流奔湍を下るが如き趣がある世間の所謂トンく調子とは疑ひもなく斯等の事をいふのであらう、茲で丁度其の時分前にも述べた通り彼の政界の怪傑李根澤は別に是れといふ官名は帶びて居らなかつたが兎も角も權謀縱横術數百出の政客として居然一方に雄視し隱然一敵國の慨があつたのである、依て彼れは一方ならず彼れ李根澤の勢力を嫉視し機會もあらば彼れを九地の下に蹴落さんとの念頼りであつたが併しドウしてさう旨くは行かぬ、却て李根澤にあつては彼れが得意の地位を陥れ以て自己の方寸通り操き回はしたいさの念が充ち満ちて居つたのである、

浮世ぐさ

●オルガン製造の始

靜岡縣濱名郡松山町山葉寅楠氏は明治十八年始でオルガンの製造に從事し鋭意研究の結果終に山葉風琴の名を内外に揭ぐるに至れり爲めに三十五年三月六日賞勳局より教育及び工藝上に大功ありとて綠綬褒章を下賜せられたり

濱の西川西洋樂器製造所西川虎吉氏は明治十三年より洋樂々器の製造に從ひ斯業の元祖なりといふ

●蓄音器の始

本邦に始めて蓄音器の渡りたるは米國駐在公使たりし故陸奥宗光氏が明治十九年中同國より歸朝の節之を齎らし歸りたるを源始とすされど多く輸入せらるゝに至りしは同三十三年以后のことなりとす

●指環の始

明治六年三月東京雜誌第八十一號に府下當時見聞のまゝとして揭げたる風俗中に「金銀の指輪を掛けるもの多し」とあり又七年十月繁昌記藥物舖の條に「頭には高帽を戴り指には金環を貫き……金環を購ふ少年香水を買ふ欄僧」とあり、又馬鹿の番付には「洋銀の指環を箝めてうれしがッて居る人」と揭げあり

●椅子の起り

本邦素とあぐらなど稱して腰掛けの椅子なき非ず。唯明治維新後盛んに之を使用するに至りしのみ文久二年「見聞誌」に「見世さきに腰打かくる椅子ありて(洋人)に之を出す。之れに寄りかゝりて卷烟草を咬へ揩付木にて飲む」とあり椅子の名は今に同じ、又明治四年九月の東京雜誌十四號に「此頃縣廳を見るに皆椅子にかゝる官事を辦せらるこれ皆腰掛けの人々なり、次に同六年四月[illegible]に椅子の圖あり又七年の版に係る繁昌記に「當今椅子と稱するものあり凭るに椅子あり臥するに寢床あり」とあり以て其頃に於ては已に一般に流行されしを知るに足るべし

小説 新不如帰(三十六)

篠原嶺葉著

「たゞ足柄か此間は御苦勞ちやつたなア、して今日は何事だ、何か用向があつて來たのか」

斯ら問ふたのは陸軍少將村木忠道と云ふ人で、參謀本部の或樞要の椅子を占める部長である、足柄が技能の無い割合に、人並より昇進も早く、又參謀本部詰となつたも、この村木少將の引力が與つて力あるのである。

「はい、今日は少し閣下に内々申上げたい事があつて、突然伺つたんであります」

云ふは足柄少佐である。

「然うか、まあ掛けるが宜い」

「はい」

と、有合ふ椅子に腰をかけた。

「一体用向は何んぢや」

村木少將は先づ斯う問ひかけて、寛に密貫を燻らすのである。

「此、重大の秘密事件ですが、此處で申上げても宜しうありますか」

「なに重大な秘密事件ぢや」

少將の眼は著しく輝き初めた、

「うむ此處で話しても差支へは無いが、でも入口の扉を閉て鍵を鎖して置かう」

と云つて自ら起たんとした、足柄はかくと見るより、

「私が閉めて參ります」

と、足早に入口の扉をパタリと閉めて、中より固く錠をかけた後、又元の椅子に復した。

少將は始めの氣色と違つてやゝ姿勢を正し

「もう大丈夫だ、話すが宜い」

足柄もやゝ姿勢を正して、

「他の事ぢやありませんが、我が陸軍部内に軍備の秘密を外人に賣渡したものがあります」

少將は物に動せぬ性質であるが、こればかりには少しく驚いた容子で、

「外人に賣渡した、シテ其の外人は何國のものか」

「外人と云ふは、即ち黑鳩將軍です」

「むゝッ、黑鳩將軍に軍備の秘密、シテ賣つたのは何者ぢや」

「賣つたものは、彼の西脇少將の遺兒で、當時第一師團の副官を勤めてる西脇大尉であります」

少將は、ますく意外に打たれた容子で、

「西脇大尉が、黑鳩公に軍備の秘密を賣つた、それは些と辻褄の合はない話ぢやないか、西脇少將は露國の遼東還付に對する干渉を憤慨して自殺爲たんぢやないか、其人の遺兒が、親の讐敵とも云ふべき露國の軍務大臣に、日本の軍備の秘密を賣ると云ふは、全体奈何云ふ理だ、如何にも異しい話ぢや」

「成程閣下の有仰る如く、西脇少將の自殺の精神から割出して考へますると、其人の遺兒が那様事を爲べき道理は無やうに思はれまするが事實は眞個あるのであります。」

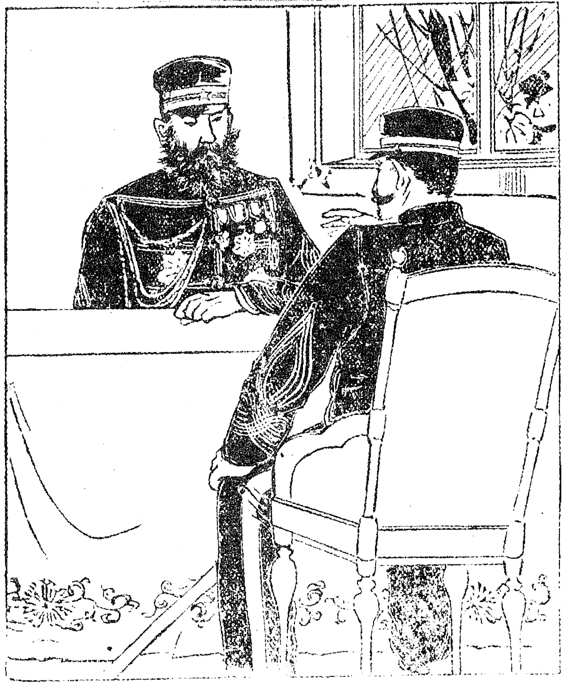
「一体誰から聞き出した」

「誰から聞き出したのでもありません、私が現在を目撃したのであります。」

と、彼の須磨の海濱に於て、黑鳩將軍と西脇大尉が密會した事、西脇が姿を變じて居た事、軍備の地圖を賣渡した事、自分が黑鳩將軍の接待員として出張中、計らず密會の現在を認めた事などを、事も細に物語つた

始はあまり深くも信じない容子であつた村木少將も、此物語には信を置かずには居られなかつた。

扱も西脇大尉の身の上こそ風前の燈火である



大門行列車 [illegible]

京城新報

長谷川大將を送る

大將閣下、閣下は近々暴徒討伐の實蹟を目て鎭滅を速ならしむる爲め地方に出發せられんと聞く、時恰も炎暑に向ふ地方巡視の困難察すべきものあり、余輩は衷心より閣下が此行を感謝するものなり。

閣下が此行は最も機宜を得たるものにして此際是非とも司令官たる閣下の巡視によりて英斷せらるべき時に迫れり、曩にも余輩が述べし如く、炎暑の加はると共に軍隊の衛生を缺き、惰氣の生ずるに從て風紀の紊亂を釀成するは自然の數なり、前途永く此儘に放任するに於ては精鋭の軍隊を傷け訓練に於て多大なる無形の損害を受くるや必せり、換言すれば討伐軍の怖るべきは暴徒に非ずして風紀の紊亂衛生の廢頽にあり、惟ふに前途永く現狀を續くることは軍隊の堪る所ろに非ざるべし、要は此際更に英斷敢行して一擧殲滅せしむるの外あらざらん、閣下今回の行は將さに之を敢行する爲なるべしと信ず。

我精鋭なる軍隊を以て暴徒を討伐するが如きは甚だ勿体なく感ずれども、軍隊に依らざれば鎭滅し能はざるを以て已むなく此擧に出でしなり、然るに曠日持久之に相對するが如きは決して策の得たる者に非ず、殊に炎暑の候衛生の行屆かざると、惰氣の爲に風紀を紊す等前に述べたる如く其損害や計る可らざるものあらん、之れ余輩は常に軍隊の勞苦を思ふと共に憂慮措く能はざる所なり、若かず一擧に討伐し罷りて引揚るにあり、閣下の眞意も亦之に外ならざらん。

討伐後に於ける地方安寧保持の爲に憲兵補助員の規程發表せらる、閣下は此補助員を韓人より募集し、之を使用して能く地方の安寧を保持し得らるべしと信ぜらるゝか、皮想の觀よりすれば聊か良き思ひ付の如く感ずれども、冷靜に之を考れば此事たるや殆ど徒勞に終るのみならず、却て之を使用したる爲に一の弊害を惹起する憂あらざるやを疑ふ、閣下の高見果して如何、討伐後に於ける安寧保持は夙に余輩が唱導したる在留邦人の義勇兵組織に依るの優れるに非ざるか、韓人巡査及韓兵が從來地方に於てなしたる行動を知るものは、今回の憲兵補助員に向て信を置く能はざるなり、之が爲に地方在留邦人の危險を增すてふ奇異なる現象を生じ來らずとも斷言し難し、閣下今や大任重寄を負ふて進發せられんとするに際し、以上余輩の卑見を呈して、閣下の清鑒を請はんとす、炎暑の行程不便多し請ふ國家の爲め自重せられよ。

●漢城便り

▲昨年來暴徒の鎭定に專念し殆んど寢食を忘れつゝあるところの長谷川大將には近日南韓地方へ親征せらるゝとの事に御坐候記者は將軍に向つて親征の勞を謝すると同時に將軍の威風が暴徒を屏息せしむることを信ずるものに御座候

▲暢氣なるは春畝公に御座候公は避暑の爲とかにて近々歸東せらるゝとの事に御座候新聞規則の發布と韓內閣椅子轉換とが今次の土産に御座候併し是丈にては我等に於ても內地の人々に對し甚だ面はゆく被感候に付御出發までにせめてはモ一一品御調可然と存候

▲一說には統監今次の歸東は韓國中央銀行急設の爲なりとも申候併し中央銀行位の事にて公を煩すは記者の忍びざるところに御座候公たるもの願わくば此際才の人となりて種々の口實を設け逃出し玉わんより寧ろ意の人となり落付いて暴徒討伐、地方政の刷新及內閣の前途を見屆けられ候樣切望仕候

▲今日の儘にして統監去り玉わば韓內閣は閣員間に紛爭を起すことは必然に御座候起るべき紛爭を知りつゝ萬事を曾禰子に托して行かれんとするは偶子爵の技量を試めさるゝ御意見に候やさりとは隨分れ人の惡き御仕打と存候

▲昨年來編輯中なりし英文統監の治績なる書物は近々上梓せられ世界各國の主權者政治家其他へ配布せらるゝとの事に御座候俳優自身の物したる手前味噌の劇評には讀者全体が嘸や恐入るならんと被存候

桑港電報

▲共和黨領袖の言明

シカゴの共和黨領袖等は其の綱領草案中に日本勞働者排斥の條項を有せずと宣言せり(十三日東京經由)

東京電報

▲國立感化院設立

內務省は四十二年度に於て國立感化院五箇所を設置するため其の經費を豫算に計上するに決したり

▲陸海軍倶樂部

今回新設する陸海軍倶樂部は豫算額七十五萬圓にして御下賜金三十萬圓の外は軍人其の他の寄附金を募集す

▲コッホ博士來着

コッホ博士は今日未明橫濱に入り出迎の北里博士等の訪問を受け入京せり新橋驛には石黑軍醫總監岡侍醫局長其の他醫師多數出迎へコッホ博士夫妻は帝國ホテルに入れり

▲官營鐵道益金

昨年に於ける官營鐵道の利益金は三千二百餘萬圓にして純益は豫算より八十七萬圓超過せり

▲戰事條約公布

ゼネバに於て調印せられたる戰地軍隊に於ける傷病者取扱に關する條約批准公布せらる

▲地方官交迭

平岡福島縣知事は樺太民政長官に西澤青森縣知事は福島縣知事に武田山梨縣知事は青森縣知事に轉任し熊谷喜一郎氏山梨縣知事となる尙事務官十二名交迭せり(以上十三日發)

雜報

●警察區域の變更

內部警察局は地方警察の刷新を圖るため警察官の大交迭を行ひ敍官轉任新任等目下續々發表しつゝあるが今回更に警察署同分署並に駐在所の集合に失し散在に傾けるものを變更して區劃及び配置の宜しきを得せしむる爲め近々部令及び訓令を發布する由なるが其內容を聞くに忠北平北兩觀察府の移轉せられし結果淸州の分署なりしを警察署とし忠州警察署は淸州管內の分署となし義州に警察署を設け新義州警察署を分署とし定州分署を寧邊管轄より離して義州管轄に移し龍巖浦は依然警察署として存置す又咸北淸津は開港場となりてより人口著しく增加し警察署の必要あるを以て此れを新設し慶興分署の鏡城警察署の所管なりしを淸津所屬とし尙從來の駐在所は新設の際突差の間に決せられたるため近距離の地に警察署或は分署の存在せるにも拘らず遠隔の地に在る警察署又は分署に屬せるものあり甚しきは行政區劃たる道を異にして同一管轄に在るものありて理論上及び實際の便宜上不都合に付四箇所を新設し一箇所を廢止し且つ其の管轄を變更せらる尙人員配置に關しても日本人巡査の在勤せざる駐在所全國を通じて百餘箇所なりしを他の比較的人員の多き所より割きて一名宛の日本人を配置する事とし韓人のみの駐在せるは四十餘箇所を餘すのみとなせり而して今回の配置變更は定員の範圍內に於てせられたるものにして其の實施は七月一日よりする筈なり

●憲兵補助員募集に就て

今回暴徒鎭定のため憲兵補助員を募集し駐韓日本憲兵隊に附屬せしめ同隊長の指揮監督の下に置く事に關する法令發布せられたるが此の規定に基き先づ募集せらるべき補助員は約四千名にして全國各地に於て募集し其の地方所在の憲兵分遣所に附屬せしめ暴徒討伐鎭定の任に當らしむる方針にて應募者は解隊兵の大部分を採用する事となるべく而して此の募集事務は韓國軍部日本憲兵隊と協議の上處理する事となりて昨日より軍部官吏二名憲兵隊本部に出頭し準備中にして其の經費は豫備金中より臨時支出する事となり度支部に請求して其の承認を經たりと云ふ

●暴徒討伐と憲兵補助員

暴徒討伐に韓人を使用するは偵察其他の便宜あるのみならず一般國民は日本の軍隊憲兵警察官の暴徒討伐を見て外國人が自國の同胞を殺戮するものと認め却て暴徒に同情するの傾ありて討伐行動上不利尠からず現に警務局が韓人を以て組織し日本人警官を監督に附せる特設巡査隊の如き其の人員の僅少なるに拘らず效果の比較的良好なるは此の理由に基くものなり今回韓國政府が憲兵補助員を募集し日本憲兵隊の指揮の下に暴徒鎭定の任に當らしむる事となりたるは一般國民の誤解を去り暴徒討伐の效果を擧ぐる上に策の宜しきを得たるものなるべし

●臺東殖民計畫

臺灣は蕃界の甚だ大なる割に耕地多く開けたり即ち全面積三百六十萬甲の中六十二萬甲は現に耕作地として用ひらる即ち一割七分に當り恰も日本內地の一割七分三厘と大差なしされど各地方に依りて大差あり試みに蕃界を除き單に行政區域內に就きて耕地割合を見るに鳳山地方最も多くして五割五分に上るに反し臺東地方の如きは僅に九分に過ぎず而も全島の平均は三割三分以上なれば臺東地方未だ開拓すべき耕地甚だ多し同地方は蕃情極めて平穩なれば蕃界の幾部をも計算の中に入るゝことを得れど之を除きたり而も同地方の平野は西方中央山脈東方海岸山脈の間に於て奇萊、秀姑巒、卑南の三大溪南北に流れ灌漑の便を得べき所甚だ大に幅約一里餘を以て延長約四十里に涉るの間概ね荒蕪地に屬す近來藤田組の開拓事業起れりといへども台東大沃野の一部分たるに過ぎず唯人口稀薄なるを以て土地の利用斯の如く少きのみ、臺灣各地の人口密度は最近の統計に據れば臺北地方第一にして一方里六千二百九十人の多きに上れど臺東地方は僅に三百人に過ぎず而も全島を通じての平均は二千四百九十一人なり、故に臺東は土地の利用に於て臺灣全島平均の四分一を超ゆるのみ人口に於て臺灣全島平均の八分の一に滿たざる有樣なり若し茲に大殖民を實行するとせば必ずや良田美圃を開拓し得ると共に天惠の寶たる樟腦石油金鑛等產物數ふるに暇なかるべし聞く處に依れば臺灣總督府亦多少の考慮あり新に臺東移民局なるものを設け內地より大規模の移民をなさんとすと實行は孰れ經費の問題ならんが遠からず事實として現れ來るべし

●日韓關税同盟に關する調査

東邦協會より仁川商業會議所に宛日韓關税同盟に干する調査を依囑し來りたるに對し此程左の如く同會議所會頭より同會へ回答せりといふ

日韓關税同盟の儀に就ては夙に學者又は實業家の間に於て唱道せられたる問題なりと雖も商業會議所の議に上りたるは明治三十八年十月元山日本人商業會議所に開かれたる在韓國日本人商業會議所聯合會議案として主催地元山日本人商業會議所及び京城日本人商業會議所より提出されたるを始めとし其後四十年十月京城日本人商業會議所に於て開かれたる聯合會の議にも上るに至り申居候當初同會に採用せられたる議案並に理由書は左の通に有之候

日韓關税同盟を締結して兩國の輸入税を全廢するの件

理由　日淸戰爭以來日韓兩國の關係は啻に通商貿易上極めて密接なる關係を形造せしのみならず政治上軍事上又特別の關係を有したり日露事件の勃興するや兩國の關係は更に日韓議定書に依つて一層深厚なる關柄となりき其平和克復せられて日露講和條約の公表せらるゝや兩國の關係は何れの點に於ても列國は最早容喙すべからざる特殊の關係たることを公認せらるゝに至れり然るにも不拘獨り關税のみ相互に鐵壁を設け他の列國と擇ぶ所なきは彼我國際的利益の發展を圖る上に於て遺憾とせざるを得ず故に兩國經濟共通の制を圖り其一端として兩國間に關税同盟を結び益々相互の利益を增進するは今日に於て機宜を得たる策なりと信ず(未完)

●地税問題不調の善後

過日開催されたる第二十三回仁川居留民會協議會に於て土地税問題に就きて地主側より提出せる再協案に對し讓步の餘地なき旨決議したるは既報の如くなるが該問題の善後策に關し民團理事者及び委員は一昨日午前十時より民團役所樓上に會し數時間に亘る協議をなせるが結局不調に終るべしと危まる

●韓國鐵道乘車券の取次

統監府鐵道管理局に於ては內外旅客の便宜の爲め萬國寢臺車會社に同鐵道乘車券の取次販賣を托すべき計畫中なりしが此度愈々兩者間に商議纏り七月一日より萬國寢臺會社の東京、橫濱、神戶、長崎、下關、仁川等の各出張所に韓國鐵道乘車券の取次販賣を開始する由

●賊徒と農作(承前)

△新院附近の農民の播種期は每年舊二月二十日頃より始まり同四月下旬に終り收穫は六月上旬に始まり九月下旬に終了を常とす其後は十月下旬迄に冬期中に於ける薪炭を採り終り翌年播種期に至る迄は間隙なく而も昨年賊徒蜂起猖獗を極めしも十月以降既に農事を終へたるの時なりしも多くの壯丁は賊に拉去せられ或は難を恐れて他に避難する等一般生業に安堵するの狀況なかりしなり昨今は賊徒の出沒稀にして官憲の保護地方に固くなりたるを以て良民の避難したるものは歸家し賊中に拉去せられたる壯丁も漸次歸順し生業に從事するを得たるも耕作其他の生產等に及ぼす影響は少からず播稻は平年に比し約二旬の遲滯を生じたる處多くして最も甚しき地方は信川郡斗羅場附近にして全く農業を廢し他に移住するもの或は家婦のみを殘したるものあるの結果到底平年の收穫を得ざるべし

△殷栗及豐川、松禾郡蓬萊面內には時々賊徒の侵入せしことあり尙本年四月以來海州載寧信川各郡に於て討伐中なりしを以て賊徒の逼入を恐れ良民も稍々危惧の念を懷きしも播種耕作に付ては五月初旬以來田畑の苗代粟豆類等蒔付に着手し耕作不能の場所なく人民も本年は昨年の如く賊徒の橫行斷絕し安堵其業に從事するを得る爲め喜び居れるの有樣にして耕作上の影響なきが如し(完)

●長谷川大將の招宴

昨日長谷川大將には聯隊長會議の爲め來城せる丸井小野寺兩少將を始め各聯隊長大隊長及各衞戍病院長等を大觀亭に招き晚餐會を催せし由

●法官典獄の拜謁

高法相は昨日渡邊大審院長、國分檢事總長倉富次官以下法官廿四名典獄七名を帶同參內拜謁を仰せ付けられたり

●小松氏と辨理公使

目下上京中なる統監府書記官小松綠氏は少壯外交官中屈指の人才なるが外務省に於ては目下有爲の外交官拂底の折柄氏の如き人物をして京城の如き地に止まらしむるを遺憾となし氏に向つて某國辨理公使たらんことを勸誘中なりと云ふ

●長風氏の消息

菊地長風氏目下京都にあり社中に宛たる近信中に曰く「京城より釜山迄車上徒らに睡眠を貪り釜山より門司迄一睡中に經過致候漢城の風雲にて疲勞せし爲ならんと存候馬關より京都に參り四園畫中の風光に歌醉す」云々

●大內代議士　木浦居住代議士大內暢三氏は進步黨大會へ臨席の爲東上せられたり

●星代議士　來京中の代議士星一氏は一昨日夜行にて歸東せられたり

●デビッドソン氏　關税局囑托の同氏は母君令妹を迎ふる爲來る十六日上海に向け出發せられ往復一週間にて歸任せらる由

●太田銀支店長の講話　仁川第一銀行支店長太田三郎氏は仁川實業同志會の發起せる信用組合の爲めに昨日午後八時より仁川倶樂部に於て講話をなす由

●統監府警部の昇給　左の諸氏は何れも六月八日附を以て頭書の通り昇給の辭令を受けたり

五級　川崎爲三　六級　石川與一郎
五級　野々部茂　五級　橋爪退藏
六級　萩野直十郎

●內部巡査の採用

內部警務局は先日巡査採用試驗を執行したるが志願者百餘中二十六名を採用するに決し本月十七日より二週間實科敎習をなしたる後各地方警察署に派遣して缺員を補充する筈にて今回採用せられたるものは曾て巡査の職に在りたるものを試驗し履歷及び身許の確實なりと認めたるものを採用したるなりと云ふ

公人私人

△池袋秀太郎(專賣局經理部長)　一昨日來京巴城館
△小川貫(三井物產社員)　同上
△遠藤太三郎(同上)　同上
△佐々熊太郎(東亞貴會社長)　平壤方面に赴きたるが一昨日來京
△村上又次郎(農業會社技師)　一昨日大邱より來京原金へ
△北尾榮太郎(北陸新聞社長)　原金へ
△深川傳次(釜山副理事官)　同上
△橋本常平(補佐官補)　一昨日出發釜山へ

●糧食輸送　一昨日木浦丸にて仁川陸軍運輸部より群山守備隊及木浦守備隊に向け糧食若干個を輸送したり

●韓國憲兵補助將校任命

韓國憲兵補助員令は既報せし如くなるが十三日步兵參領朴榮吉、步兵正尉命泰元の兩氏補助將校に任命せられ同時に憲兵隊本部在勤を命せられ明石隊長の指揮を受くることゝなれりと

●近事片々

▲韓皇●●本日永禧殿展謁の爲行幸あらせらる沿道例に依り警戒嚴也晚近行幸何ぞ頻繁

▲一進●會類に活動を始め李總理辭職の勸告に熱すと聞く李總理之に應ずるや疑はし

▲李容●九統監に向て此事を談じ統監に貴會李總理に替るの人物ありやと反問さると

▲反問●に對し言句出でず目を白黑して漸く切拔けたりとの說あり偖々意氣地なし

▲宋●氏にも辭任し會に活動せよと勸告す裡面の消息は兎に角表面は頗る躍起となる

▲目的●は責任內閣を組織するにありと立派の申分なれど目蔭に人物なきを如何せん

▲韓人●は政權に接近するを急ぐ爲に失敗す現に亡命組の如し全体今出る時機に非ず

▲日本●に長く居り之等の事位は心得て居る癖に持つたが病だ仕方なし偖不甲斐なし

▲亡●命組にして今政局に立つても迚も人民歸服せず時機を俟て徐ろに起つを要す也

▲韓●人は權勢狂なり故に逆境に長く堪る能はず之を得るが爲には死を決す是病的也

▲自重●して時機を俟てば招かずして渠等の時代は來るべし何等も焦て失墜す可憐也

▲前●內閣派の李夏榮權重顯朴齊純等陰に完用を援けて宋派に當ると頻に風聞せり

▲系●統上左もあるべしと思はる亡命組の如きは兩方に顏を出せりとの說あり滑稽也

▲要●するに詮し來れば眞正に日本を德として親むものなし唯一時權勢を張るが爲也

▲宋●氏が如何に日本派たるも其心底は些と疑はし之を攻擊する一派も目先が見へぬ

▲己れ●に不利と見れば直に叛くは韓人の特性排日も親日も自己中心點耳哀むべき也

▲淸國●軍隊東京國境の佛國軍隊の一部を攻擊して損害を與へ佛國政府怒て談判すと

▲不規●律の軍隊往々斯る事を仕出來して國際問題を惹き起す眞に蒙昧度し難し可慨

▲暹羅●皇族子弟川崎造船所に職工となりて造船を學ぶ彼得大帝の面影偲ばれて床し

▲松田●藏相若槻財務官に肘鐵を喰て次官採任に屈托懊悩すと不得要領居士亦窮せり

諷詩林

荷安政

誰挽狂瀾報聖恩。殺身取義此間存。
諸公未盡濟民策。老帝猶講排[illegible]論。
百里農桑圍地瘠。連年烽火蔽天昏。
蒼生不慶荷安政。日夜怨嗟滿四村。

◎東京電報

▲在郷軍人の賭博　在郷軍人にして賭博の[illegible]れたるもの犯罪者の十中八九なるに付き陸海軍當局より地方長官に對し之が取締を注意せり（十三日發）

●愛國婦人會の慰問　愛國婦人會韓國本部に於ては來る十七、十八の兩夜在[illegible]を慰[illegible]爲め活動寫眞會を開催する由

●旌善の賊　江原道旌善分遣隊下士以下十名は六月七日旌善の東南方疫雲附近に於て約百七十の賊に衝突して之を潰亂せしめ[illegible]

●移轉途中の獲物　安州に在りし歩兵第五十二聯隊第一中隊は本月上旬松禾の新守備地に移轉の途中豐川、長淵の西南地區及長淵、松禾以東の地區を搜索し賊十六を捕[illegible]

●揚加廣三郡の搜索　京城東部警察署長以下三十名の警察官は五月三十日より六月七日に亘り揚州、加[illegible]索し賊七名を殪し六名を捕へたり

●[illegible]　[illegible]郵遞所の管轄なりしが來る十六日より仁川郵便局の直接配達區域に編入さるゝ筈なり

雜報

●官吏本位の京城（一）

◎官舍と醜業婦

京城市中に數多い者と云へば官舍も亦其の一である南山町大和町などは云はずもがな旭町西小門外南大門外等苟くも官吏のある處必ず官舍ありと云つた工合に到る處第何號官舍何々官舍と筆太に書き立てた門標が打ち附けて有る、有難い事だ大凡そ官廳に出勤する程のもの上は云はずとも下は日給二十五錢のお雇い殿に至る迄無論家賃要らずの松板づくめの家根の下にヘン官舍住居に欣ぞやと鼻蠢かして御座るイヤハヤ勿体ない事だと云つて何も夫れを羨やむのでは無いが勢い恁うなると京城は全く官吏の京城で官吏ならぬ者は人間にあらぬかの如く思ひ做されて犬が棒を喰らはされてもクワン吏と稱ねて居る、早い話しが其處らの小學校に准訓を勤めらるゝ御仁迄が給與れた家を自ら官舍と稱ねて居るでは無いか未だしも〇〇〇所の〇〇〇監督が所謂官舍住居をなさらぬのが不思議、夫れは扨て置いて官舍と相聯びて京城市中に其の雄を競うて居るは例の醜業婦ーと云ふた處で何も醜業婦が松板盡めで建運ねられた官舍と同じと云んぢや無いが併し官舍と醜業婦とは何處か先天的……に少くとも我が京城にありては先天的に一致した處がある樣にも思はるゝ、官舍と醜業婦……此が一致しては無論大變であるが試みに考ねて見ると松板盡めの官舍、安白粉コテ塗りの醜業、一は威儀も無ければ興床しくも無い處と一は美くしくも粹にも無い處が能く相似て居る、而して臆面も無く看板を振り廻す處相似て居る、夫れが又世人に持てる處が更らに相似て居る（つゞく）

●獨逸皇太子の探偵

許て伯林に於て十六歲の少年を殺害したるアウグスト、ハイデルなる勞働者あり爾來同地探偵部にては極めて嚴重なる搜索を試みたれども更に其甲斐なく兇漢の消息は殆ど杳として聞ねざるに流石の探偵部長ウァンノウスキー氏も倦み果て遂に一先づ搜索の中止を斷行するに至りしが此程のことなり夫の衛戍寺院に出火ありしとてウァンノウスキー氏は時を移さず同所に驅付け數多の群集の中に打交り居たるに眼敏くも氏を見付け給ひたる皇太子殿下は氏よりハイデルの未だ就縛せざる由聞召され本件の經過を報告せよとの御諚ありしかば氏は「小子はハイデルの早や伯林に在らざることを恐るゝものに候、若し彼にして既に伯林を立去りたりとせば之を捕ふること誠に困難ならんと存候」と申上げたるに殿下は「如何にも左もあらんか、併し若し彼にして尙ほ伯林に在らんには必ず此處に來り居る可し蓋しハイデルの如き懶惰漢にしてよも此の火事に來らざる筈はなからん思ふに群雜に乘じて事を爲すには無上の好機會なる可ければなり汝宜しく注意して群集を精査す可し必ず彼を捕ふるを得ん」と仰ありしかばウァンノウスキー氏も成程と首肯きつゝ部下に命じ精細なる搜索を行ひたるにハイデルの人相に符合する一人物ありとの事に直ちに之を逮捕したるに果せるかな此の人物こそ紛ふ方なき兇漢ハイデルなりしとぞ

●景品引替は本日　仁川開港紀念會餘興福引券當籤者の景品贈呈は愈々本日より開始すべきに依り民役所紀念事務所に申出らるべしとなり

●神輿渡御式收支決算　仁川太神宮神輿渡御式の收支決算を聞くに收入五千二百五十六圓五十三錢五厘支出四千五百二十八圓五十一錢五厘差引殘額七百二十八圓二錢にして該殘額を以て神輿を奉置すべき小宮殿を建設する豫定なりといふ

●仁川驛收入　本月上旬に於ける仁川驛乘降車客及び諸收入は乘車人員千三百二十六人、降車人員千三百三十二人、入場人員三百三十四人乘客賃金千九百十八圓七十錢、貨客車收入金二千五百六十九圓三十五錢、貨車收入金一萬四百四十一圓十錢、發送手荷物斤量三萬九千八百二十七斤、發送噸數五千六百噸七分三厘、到着噸數二百六十一噸五分一厘なりし

●放火犯逮捕慰勞宴　昨日午前十時仁川警察署韓巡査一十餘名は桃山に於て放火犯逮捕慰勞の宴を張りたり

●傷痍手當支給　仁川消防組組頭岡利吉は本年四月山手町出火の際消防中傷痍を受けたるに對し今回其筋より傷痍手當金二十五圓を給附されたり

●京城樂友會　同會は京城倭城臺に奏樂堂建設の目的を以て客歲十一月第三回音樂を開催したるも豫期の資金を得る能はざりしに依り更に本月二十七、八日の兩日午後七時半より京城歌舞伎座に於て第六回音樂會を開催し是非とも居留民諸氏の同情を俾し豫定の資金を得んとて會員一同は熱心に之れが準備中なりと因に云ふ同建設費は約八百圓を要すと（第六回音樂會のプログラムは一兩日中に發表の由）

●又も官金の紛失　客月廿一日内部會計課より治道工事費として第一銀行券五千圓を木浦在任治道局技師片山氏の許に書留郵便にて送附したるに該書留郵便のみ着して在中の金品は影も形も無く拔々の體なりしを以て同技師は其旨早速郵便局其他に告げたれば目下其の筋にて取調査中なりと

●發狂美人

△美人薄命△評判の今小町△藝が身を助くる不仕合せ

佳人多くは薄命にして才子もこれ多病の者なりとは昔へより言古したる唐人の寢言のみにはあらじ今茲に記さんとする女主人こそ天禀の容姿既に十人に優れ世の常の女性より羨望を受くる程の美人にして且つは其の家も多少の資產を有し幼時蝶よ花よの寵愛を受け一通りの教育は素より親が娛しみの遊藝まで心得たる身にてあり乍ら兎角天邪人に至きを與ねず其の親一たび投機に失敗してよりは遂に俳はれて虎伏す韓國まで流れ渡りたれども當時益甚しき親の窮乏を見るにつけ爭でか優しき女性の之を傍觀するに忍ぶべき自ら進みて可惜花は盛りの十九か二十歲のうら若き身をムザムザと色に餓ゑたる痩せ鬼の巢窟に投じ兇客越人日毎夜毎に異る仇し人に露置きて露の干ぬ間の枕を貸す憂きて者とは成り果てたる既に多恨のことにあらずや而かもこれが爲め遂に病を發て今果た再び世に返り咲くべき望みも薄き發狂の身となるに至りしは誰か一掬同情の涙無しとせんや哀れ此の美人名を妻城小町と云ひ其が鄕里は九州遂花潮錦江の水注ぐ邊りにて古來此の地方美人の產地として名ある處なりけるが小町は幼時より同じ里の小娘に立交はりても一際優れて目立ちければ實にや小町とは其の兩親が假染に命けたるのみにはあらじとて鄕黨何れも持囃す程なりき斯くて小町は兩親が又無き慈愛の下に生長して漸く物心着くに至りければ土地の小學校に入りて教育を受くることゝなり且つは其の家庭の娛樂とすべく遊藝の道一通り教はることゝなりたるが素と怜悧なる小町は兩つながら優等にて特に晩發の折などは其の愛くろしき容姿を兩親の前に置き三味線の復習なして兩親を喜ばせたることこそ哀れ遂に藝が助くる身の不仕合せとなる基なりしなり（續く）

●亭主に打たれて　アイゴー亭と云ふ飲食店本町六丁目邊にあり此の店の名は左工門の氏素性も素より知らねど根が商賣柄だもの此さやゝッとの浮氣位いは何の亭主が恐かろう敢て此方から膽を据ねたと云ふ譯ではあら無し憚んながら向ふ樣から彼のやうな優い眼を下げて來るんだもの是れが如何して逃げられよう逃ぐるは女の卑怯と云ふものサア來しやい之れ此の通り門戶開放れ洗ひ通り夏向きだものチャンと奇麗に掃除は仕てある座敷の奥は千疊敷廣い程御覧くり……と宛ら店の廣告か何かの如く自分の門口を開放した爲め遂い再昨夜亭主に散々打たれて肩前に爪つた程の傷を負されて近所を騷がせたとは呆れた噺もあつたものだとの投書の儘

●韓ごろ　京畿道黃州郡新村生れ金觀順（五十）は一昨日午前九時三十分本町二丁目金物商佐野方の家人の隙を窺ひ店頭にありたるアルミニユーム鍋一個を竊取して逃れ去らんとしたるを發見され其儘御用

●俗調　吉崎御坊

寢ても眠たい親なら寢しよに　あかの他人は引起す

人となるには人まねさんせ　人となつたる其人の

とつた笠のふときを撰つて

二つ三つ四つ蚊帳のうち

●本願寺の連夜布敎　長谷川町の西本願寺出張所に於ては本日より十七日迄連夜布敎をなす由にて十四日は午前十時より韓人靑年會を開き「施すの可否」と云ふ討論ある由なり

●日曜の美以敎會　旭町二丁目名古屋城內の日本メソヂスト敎會にては本日を子供の日又は花の日曜とも稱へ主人公は子供にして讚美、演話、對話等あり午前十時より開會し父母兄姉の來聽を歡迎すと尙午後八時よりは傳道說敎あり

●日曜講壇　日の出町なる京城基督敎會に於ては本日午前九時より日曜學校を開き同十時より禮拜說敎あり

聖書講義　織居加一

同午後八時よりは左の傳道說敎あり

力以上の力　宗像鴨四郎

もよやま

▲釜山　貿水町に住む古谷くま（二十）と云ふ女郎は子宮病を苦にして去十日縊死を遂ぐ▲兒を產んだ爲め鑿になつたを歎したき花恥しき肌を七日間灘に晒らしたは神戶灘原の玉蝶と云ふ藝妓▲鎭南浦　には此の程から頻りに狂犬が現はれて既に警察署に撲殺したのが九頭に及んだとはワンとも危險千萬▲若狹　小濱町縣立水產學校中古賀俊助は加賀の溫泉に出掛けた儘歸り來らず附近の山林にて縊死を遂ぐ原因は遊里に拵つた借金を苦にしてなりとは淺間しい先生▲去る十日の夜不擴凱旋樞から投身した者があるとの事で警察一生懸命搜せど屍体も何にも見當らず無論何處の男とも女とも何らぬとは何だか河童の屁見た樣な話し▲橫須賀　吉田屋の抱藝妓安子が朋輩の力彌から情夫を寢取られたを怨んで白濱海岸に投身した爲め其の怨靈が情夫と力彌との二人に取附き二人とも半狂亂逆夜囈語を言ひ續けて生命危篤とはオゝ恐わ

（平）（民）（文）（庫）

▲新町京城樓では昨夜又々四名の新妓が現はれたイザと思はん粹樣方早速出掛けて初花を手折られては如何（注進生）▲旭町の某旅館に御腰を据ゑて支那領事館前の待合の御神に現を拔かし居る八將某よ汝が不倫の行爲に依り家庭は常に風波絕ゆ今に於て改心せずんば汝が是迄犯せし罪惡を悉く素破拔くぞ（憤慨生）▲淡江で短艇競爭でも行る樣にはいつ何日なるだろう（老書生）▲韓國でも些と大仕掛の競馬をやつては如何だ馬匹改良の爲めおちや無い馬券を賣る爲めに（射倖博士）▲思附き妙なり必ず大當りなるべし（小僧）▲病む吾の頭冷してたまいてし君に別れの夕雨ふる（病客）▲中傷にあらざる限り廣く諸方面の投書を歡迎す（記者）▲本日は日曜で此日を如何にして暮さんと煩悶せらるゝ人のために南大門外及び東小門の內外北門外にあるユスラが今や紅熟してルビーを連ねた樣に皆さんお出でと赤い顏して待てます（ユスラの子）

●天氣豫報（自十三日午後六時至十四日午後六時）

南又は西の風晴

●十三日午前六時各地氣象概況　區々の風吹き概ね晴天なり氣溫は昨朝に比し一般に下降せり

西の宮た樂の述懐（十三）

◎天井抜けの大騒き

三人の小僧さんを生捕つて三人のバラガキ藝妓が飲食をして勝手な熱を吐いてるのですから茶屋さんでの騒ぎといふものはありません『小僧さんそう無暗とた肴ばかり荒さないでサア私の思いざしを一ツ食つて下さいよ』と猪口を差すと『私ばれ酒が飲めませんから如何ぞ御免下さいまし』とモジ〳〵する『そうでもあらうが人に恥をかゝせるもんぢやありませんよマアた杯だけでも宜いから受けなさい』『そうですか夫れぢやれ杯だけ』とコワ〳〵も手を出す『そう柔順に出られると一倍可愛さが増すといふのサ……併した猪口ばかりでは餘り風情が無さすぎるホンのつぐ眞似……オツトそうた杯を振はせては仕様が無い』と滿々とた酒を注いでやると夫れを下い置た儘途方に暮れてる仕末

『そう下にばかり置くとぼうふらといふ虫が湧きますよ宜い子だから一ト口たあがり……ほんの一ト口で宜い后は私達が助けて上げるからサア思い切つてグツと……』とまくし掛けて無理に强めるから小僧さんも飲まない譯に往かずまるで藥でも口にする時の樣に顔中をしかめながらヤツト飲み干し『アヽにがい……』と云つて其杯を又下に置いた儘貰つた相手に返さうと云ふ氣も無い『何だ干したら御返杯と云つて返しをするもんですよ……』と其の杯を引つ奪くる樣にして『サアた酌をして下さいナ』とた銚子を突き付ける其んな工合で三人の小僧さんに無暗さ酒を飲ませましたから堪りません猩々の申し子か金時の火事見舞宜しくといふ鹽梅に醉つ拂ひまして中にはグニャ〳〵と足腰の立たないのなんぞが出來『アヽ苦しい』『何だかこう目が廻る樣だ』『頭腦が痛くて仕樣が無い』など〳〵云つてカラもう生體が無い素々そう仕樣と云ふ計略でムいましたから此れ幸いといふので『サア少し彼方へ往つて横にれなんなさいましようそうすりやア直ぐに直りますから……私が介抱をして上げましよう』と銘々一人づゝ手を引いて出で行く

店の首尾もあらうからと云ふので酒がさめると直ぐ何程かのた小遣を握らせて三人の小僧さんを歸らせ後はバラガキ連ばかりとなりましたが『如何で今日はマル遊びの氣で出て來たのだから思ふさま飲んで飲んで飲み明そう』と改めて酒盛といふ事になり其席での咄といふのは今の先かへした小僧さん一件で『もう〳〵世話が焼けたつちやアありやしない』其から其と大騒ぎでしたが何しろ日頃の望が叶つたといふので皆な氣を張して飲んだからスツカリ醉つちまいまして何處を如何歸つたか家へ歸つたのもウロ覺わといふ有樣でムいました（續く）
